

■中央教育審議会初等中等教育分科会：教育課程部会（第11期第6回（第128回））資料■

全日本中学校長会

『中学校における学習指導要領の実施状況について～全日本中学校長会 調査研究報告書の結果より～』

1 全日本中学校長会教育研究部の調査の概要

- 47都道府県の公立中学校の中から都道府県ごとに、学級数による学校規模（小規模、中規模、大規模）や立地環境（農・山・漁村、都市近郊、都市部）により抽出。
- 毎年度、10月上旬～中旬頃、webページを活用した直接入力方式により実施
- 2月に「調査研究報告書」として全国公立中学校に報告
※平成30年度～令和3年度における実施校数
平成30年度：397校、令和元年度：540校、令和2年度：529校、令和3年度：544校

2 調査結果

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について

[質問1] 「主体的・対話的で深い学び」は、生徒のどのような面の向上が図られると思いますか。（複数選択可）

※平成30年度は、選択肢が「話し合う力」「実践力」「自律心」となっていた。そのため、数値は（ ）

[結果1]

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		移行措置期間			全面实施
ア	学習意欲	84.9%	83.3%	83.4%	77.9%
イ	知的好奇心	63.0%	60.9%	61.1%	58.5%
ウ	基礎的・基本的な知識や技能の取得	47.9%	40.6%	36.5%	38.1%
エ	思考力・判断力・表現力等	88.7%	89.3%	86.0%	86.0%
オ	協力・協働する力	81.1%	77.2%	76.9%	79.2%
カ	問題・課題発見力	55.7%	59.8%	62.6%	57.0%
キ	言語能力	56.2%	48.7%	47.6%	44.3%
ク	プレゼンテーション力	46.3%	45.9%	48.8%	52.8%
ケ	コミュニケーション力（話し合う力）	(74.8%)	75.9%	76.0%	72.1%
コ	課題解決力（実践力）	(25.7%)	63.3%	58.2%	51.7%
サ	想像力（自律心）	(17.6%)	21.1%	20.2%	18.4%
シ	情報活用能力	—	35.6%	41.4%	45.0%

●「主体的・対話的で深い学び」の実践によって向上が図られる力としては、「エ 思考力・判断力・表現力等」が最も高く、「ア 学習意欲」「オ 協力・協働する力」「ケ コミュニケーション力」も常に上位に位置している。

●令和元年度から選択肢として加えた「シ 情報活用能力」については、年々、数値が高くなってきている。生徒同士がグループワークなどを行う際にICT機器を活用する場面が増えてきていることによるものと思われる。

[質問2] 「主体的・対話的で深い学び」の主な指導方法のうち、あなたの学校で重視して取り組んでいる学習は何ですか。(複数選択可)

※選択肢エについて、平成30年度は「先哲の考えを手掛かりに考える学習」。そのため、数値は()

[結果2]

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		移行措置期間			全面实施
ア	見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学習	61.7%	61.7%	63.3%	65.1%
イ	子供同士の協働(グループ(ペア))ディスカッション、ディベート、グループワーク等)	95.0%	93.1%	83.4%	83.6%
ウ	教員・その他学校職員や地域の人との対話	20.9%	11.3%	12.7%	14.5%
エ	既習事項を手掛かりに考える学習	(7.1%)	41.1%	42.0%	39.3%
オ	知識を相互に関連付けてより深く理解する学習	46.3%	40.2%	43.5%	36.8%
カ	情報を精査して考えを形成する学習	27.2%	17.4%	23.4%	21.3%
キ	問題を見いだして解決策を考える学習	53.9%	40.0%	46.5%	37.5%
ク	思いや考えを基に創造する学習	21.9%	19.6%	20.6%	15.4%

●4年間、最も重視している取組は「イ 子供同士の協働(グループ(ペア))ディスカッション、ディベート、グループワーク等)」であり、続いて「ア 見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学習」という状況である。

●「ウ 教員・その他学校職員や地域の人との対話」は、4年間、一番低い状況にある。

[質問3] 「主体的・対話的で深い学び」を実施する上での課題は何ですか。(複数選択可)

[結果3]

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		移行措置期間			全面实施
ア	「主体的・対話的で深い学び」の指導方法の理解や研修の機会	68.3%	66.7%	61.4%	68.9%
イ	「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業のための教材研究を行う時間	68.8%	71.3%	62.9%	65.8%
ウ	「主体的・対話的で深い学び」に対応する教材、教具	20.2%	21.3%	16.3%	14.9%
エ	「主体的・対話的で深い学び」に対応するICT機器の整備	31.7%	29.6%	36.1%	25.4%
オ	「主体的・対話的で深い学び」に対応する校内の人的措置	30.7%	30.9%	23.3%	23.3%
カ	体験的な学習等を実施する際の外部人材や支援機関の確保	15.6%	23.9%	21.7%	25.9%
キ	「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業における適切な学習評価の実施	45.1%	50.0%	50.9%	55.5%
ク	学習活動の時間設定の工夫	—	25.4%	23.6%	25.2%
ケ	新型コロナウイルス感染防止に配慮した学習活動の工夫	—	—	50.9%	43.4%

●「ア 『主体的・対話的で深い学び』の指導方法の理解や研修の機会」、「イ 『主体的・対話的で深い学び』を取り入れた授業のための教材研究を行う時間」を選択した割合が高く、4年間で改善が見られない状況である。

●「ウ 『主体的・対話的で深い学び』に対応する教材、教具」、「エ 『主体的・対話的で深い学び』に対応するICT機器の整備」については、改善傾向にある。

●「キ 『主体的・対話的で深い学び』を取り入れた授業における適切な学習評価の実施」を選択した割合は、少しずつ高くなっている状況にある。

[質問4] 今年度（令和3年度）、新型コロナウイルス感染予防対策による新しい生活様式の中で、「主体的・対話的で深い学び」の指導方法で工夫したことは何ですか。（複数選択可）

[結果4]

		令和3年度
		全面实施
ア	ペア・グループ学習における時間の制限	62.3%
イ	ペア・グループ学習における机の配置の工夫	58.6%
ウ	ペア・グループ学習におけるアクリル板やパーテーション等の工夫	18.0%
エ	タブレット等ICT機器を活用した学習	81.1%
オ	ホワイトボードを用いた対話的な学習	32.4%
カ	付箋等を用いた書面での意見交換	11.4%
キ	グループの人数の制限	41.5%
ク	広い会場を使用するなど距離の確保	37.7%
ケ	校内におけるオンライン会議システムの活用	26.7%
コ	オンライン会議システムを活用した外部人材の活用・交流	15.3%
サ	オンライン会議システムを活用した他校児童・生徒との交流	8.3%

●指導方法の工夫としては、「エ タブレット等ICT機器を活用した学習」が最も高く、群を抜いている状況にある。

●「ア ペア・グループ学習における時間の制限」、「イ ペア・グループ学習における机の配置の工夫」を選択した割合も高く、感染予防対策を講じながらも「主体的・対話的で深い学び」の機会を確保しようとしていることが伺える。

(2) 指導と評価の一体化について

[質問5] 新学習指導要領における学習評価についての実施状況をお答えください。順調に実施できていることは何ですか。（複数選択可）

※令和2年度は、「新学習指導要領における学習評価について準備状況をお答えください。順調に実施できていることは何ですか。」と「準備状況」を問うている。そのため、数値は（ ）

[結果5]

		令和2年度	令和3年度
		移行措置期間	全面实施
ア	各教科における「知識・技能」の評価についての具体的な評価方法の確認	(66.4%)	87.1%
イ	各教科における「思考・判断・表現」の評価についての具体的な評価方法の確認	(61.2%)	84.4%
ウ	各教科における「主体的に学習に取り組む態度」の評価についての具体的な評価方法の確認	(52.7%)	73.0%
エ	各教科における「内容のまとまりごとの評価規準」の作成	(20.2%)	34.0%
オ	年間指導に基づく「指導と評価の計画」の作成	(25.0%)	39.5%
カ	観点別学習状況の評価を評定へ総括する方法の共通理解	(38.0%)	71.9%
キ	総合的な学習の時間における「内容のまとまりごとの評価規準」の作成	(9.5%)	13.2%
ク	特別活動の「内容のまとまりごとの評価規準」の作成	(5.1%)	7.7%

●「ア 各教科における「知識・技能」の評価についての具体的な評価方法の確認」、「イ 各教科における「思考・判断・表現」の評価についての具体的な評価方法の確認」を選択した割合と比べて、「ウ 各教科における『主体的に学習に取り組む態度』の評価についての具体的な評価方法の確認」が低い状況にある。

●令和3年度の調査で初めて質問項目とした内容であるので、今後の経年変化を見ていく必要がある。

(3) カリキュラム・マネジメントについて

[質問6] 「カリキュラム・マネジメントの充実」について、あなたの学校の実施状況をお答えください。順調に実施できている内容は何ですか。(複数選択可)

※選択肢ウについては、平成 30 年度は「教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保すること」となっており、「時間」は入っていない。そのため、数値は ()

[結果6]

		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
		移行措置期間			全面实施
ア	教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと	35.3%	35.7%	36.7%	36.4%
イ	教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと	86.1%	84.3%	84.3%	84.0%
ウ	教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制、及び時間を確保すること	(27.7%)	36.9%	36.3%	33.8%

- いずれの選択肢も、4年間で大きな変化はない。
- 令和元年度以降は、「ウ 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保すること」に「時間の確保」を加えた結果、約9ポイント増加した。各学校が「時間の確保」に取り組んだことが伺える。
- 「イ 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと」については、4年間、安定して約85%を維持している。
- 「ア 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと」「ウ 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制、及び時間を確保すること」については、3分の2が「順調に実施できている」とはいえない状況にある。